

防災メモ

浅間山の噴火

浅間山は2003年2月6日に13年ぶりに噴火しました。その後、3月30日、4月7日、4月18日にも噴火しました。いずれも数分にわたって灰白色の有色噴煙を噴出し、噴煙の高さは最高で火口縁上300mに達しました。2月と3月の噴火では火口付近から山腹にかけて降灰が確認されました。また、これらの噴火と同時に微小な火山性微動を観測しました。今回の噴火の規模は、前回1990年7月20日の噴火よりも小さな極小規模なものと考えられます。



2003年2月6日の極小規模な噴火



1973年2月15日の噴火

浅間山は、**活火山の活動度による分類**で100年活動度および1万年活動度が特に高い**ランクA**の活火山です。複雑な形成史をもつデイサイト～安山岩質の複合火山で、黒斑火山、仏岩火山、軽石流の順に生じ、数千年前から前掛火山が形成され、山頂部の釜山が現在活動中です。有史以降の活動は全て山頂噴火で、釜山の山頂火口の火口底の深さは火山活動の盛衰に応じて著しく変化します。**爆発型（ブルカノ式）噴火**で火砕流が発生しやすい特徴があります。

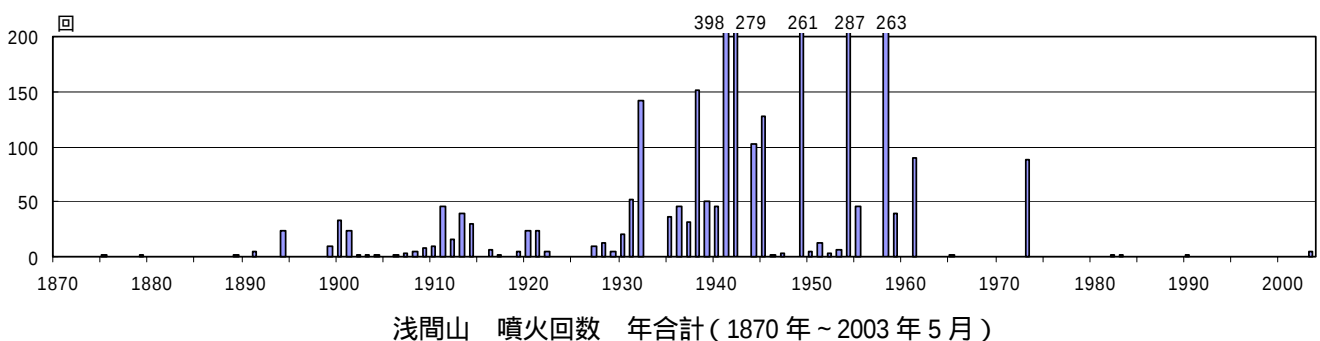
浅間山は有史以来数多くの噴火が記録されています。1783年の噴火では**噴石、降灰、火砕流、溶岩流、泥流による洪水**等により大きな災害が発生し、**天明の大噴火**と呼ばれています。その後19世紀半ば過ぎまでは比較的静かでしたが、19世紀終わりから20世紀後半までほぼ毎年噴火しました（下図）。最近100年間の浅間山の活動は、右表のように1970年代を境に噴火の規模が小さくなっています。また、火口底の深さは1910年頃最も浅くなった後、20世紀を通して次第に深くなっています。

最近100年間の浅間山の活動の特徴⁽¹⁾

	1973年以前	1982年以降
噴出物	本質(マグマ)物質	既存岩片(高温状態あり)
噴火活動	しばらく継続	単発的
噴火規模	比較的大きい	小さい
地震活動	噴火前に群発	噴火活動期前にやや増加
火口底	噴火後Lava cake ⁽²⁾	深さがより深くなる
その他		噴気、火山ガス放出量増大

(1) 第95回火山噴火予知連絡会東京大学地震研究所資料を参考に作成

(2) Lava cake: 直径数10～150mの同心円状のしわを持つ高温の溶岩の塊



浅間山の詳しい噴火史 → http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/306_Asamayama/306_rireki.html